

文部科学省委託事業
大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
(幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究)

令和5年度
岐阜女子大学
幼児教育コーディネータ
養成講座

学修ガイドブック



岐阜女子大学

1. 開設科目

番号	科目名	単位数	概要
A	遊びと文化Ⅰ	1	子どもの育ちの現状を踏まえながら、モンテッソーリ教育やニュージーランドの幼児教育について知識を深め、普段の遊びや生活動作、造形活動について視点を持つてみることで、適切な支援方法を考える。
B	遊びと文化Ⅱ	1	フレーベルの恩物について知識を深め、ちぎる・切る・折るといった造形活動についてあらためて考えるとともに、フランダースや OSIA が開発した行動カテゴリーについて理解し、自身の園での課題を解決する方策を考える。
C	保育内容(表現)	2	子どもの作品や造形指導の実態から、子どもの表現力やコミュニケーション能力、探究心、考える力の養成研究を考える。また、子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)や、物語と音楽を組み合わせることの効果について考える。
D	教師論	2	教師は、学習者とその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。そのために、幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質・能力を考える。
E	教育の方法・技術	2	21 世紀の知識基盤社会における「学力」は「他者と協働しつつ創造的に生きていく」ための資質・能力の育成である。そのために、学習活動では、他者と共に新たな知識を生み出す活動を引き出しつつ深い知識を創造させていく経験を、数多く積ませることが重要である。また、情報化や国際化が進み、社会が大きく変化する中で、学校、そして教師は様々な変化に直面している。児童に求められる学力の変化や授業での ICT 活用など、教師はどう対応していけばよいのでしょうか。本講座では「インストラクショナルデザイン」を手がかりに、幼児教育の基礎としてのインストラクショナルデザインについて考える。
F	幼児理解	1	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、ケーススタディにより幼児理解の方法を具体的に提供し、様々な問題解決を通じてから理解の深化を図る。
G	教育相談Ⅰ	1	教育相談や発達相談、子育て支援を行う意義について理解し、教育相談を推進することができるような組織づくりや計画・評価について考える。また、保護者の子育て相談等に当たる心得や態度について理解を深め、幼児が抱える課題に対して、個に応じた支援及び環境調整への配慮を考える。

2. スケジュール

	第 1 期	第 2 期
申込期間（必着）	5 月 22 日～6 月 3 日	6 月 27 日～7 月 11 日
受講料振込期間	受講確認書到着後～6 月 16 日	受講確認書到着後～7 月 25 日
履修証明プログラム 申請用紙提出〆切	6 月 19 日迄に事務局へ提出	7 月 30 日迄に事務局へ提出
受講許可書・教材等発送	6 月 20 日～6 月 27 日	7 月 31 日～8 月 7 日
スタートアップ オンライン講座	7 月 1 日 または 7 月 2 日	8 月 11 日 または 8 月 12 日
講習受講期間	7 月 2 日～10 月 2 日	8 月 12 日～11 月 12 日
学修相談会・交流会	9 月 9 日	9 月 9 日
修了認定試験	10 月 3 日～10 月 17 日	11 月 13 日～11 月 27 日
修了認定	採点終了後 判定会議	採点終了後 判定会議
履修証明書発送	12 月初旬頃発送予定	1 月中旬頃発送予定

※事務局休業期間（祝日、夏季休業、冬季休業等）のお問い合わせについては、休業明けに順次対応させていただきます。

◆ 学修相談会・交流会(Zoom)について（第 1・2 期合同開催。参加は自由です。）

学修を行って考えたことや皆さんと話してさらに考えを深めたいことについて、受講生の方と交流をします。学修への理解の深化と意欲の向上をはかります。

<学習相談・交流会 参加方法>

日時: 2023 年 9 月 9 日（土）10:00～12:00

Zoom ミーティング参加 URL

<https://us06web.zoom.us/j/82563718037?pwd=bGpnMkxEZjBTclhUVDR2UDU3NFYrdz09>

ミーティング ID : 825 6371 8037

パスコード : 771148



3. 学修の進めかた

◆ 学修の流れ～教材発送から修了認定・履修証明発行まで～

受講許可書・
教材（テキスト）等
発送

- 振込み確認できた方に、教材発送期間に「受講許可書」・「領収書」・「e-Learning ログイン ID とパスワードのお知らせ」・「学修ガイドブック（本冊子）」・「テキスト計 8 冊」を宅配便等にて送付します。

・届いたらすぐに開封し、中身をご確認ください。なお、受講期間が始まって届かない場合や受講許可書の誤字脱字等の訂正については早急にご連絡ください。

講習 受講

- スタートアップオンライン講座を受講してください。（受講希望日に受講）
・「幼児教育コーディネータ」とはどのようなものか、各科目の内容、学修の進め方等について、お話をいたします。

- テキスト・e-Learning を活用して学修を開始
・学修ガイドブックを読み、学修の進め方等を確認してください。
・e-Learning のアクセス方法を確認し、一度アクセスしてください。
・科目の内容を確認し、ご自宅等で e-Learning 内にある動画とテキストを活用して学修を進めてください。
・各科目・各講にその講で取り組んでいただく課題を提示しています。それらには、各自取り組んでいただきますが、提出の必要はありません。
・質問がある場合は、※2「質問について」（p. 4）をご参照ください。

- 学修相談会・交流会（Zoom）（第 1・2 期合同開催。参加は自由です。）
学修を行って考えたことや皆さんと話してさらに考えを深めたいことについて、受講生の方と交流をします。学修への理解の深化と意欲の向上をはかります。

修了認定試験

- 修了認定試験を受験してください。
・修了認定試験前に、メールにて試験内容をお送りします。
・必ず修了認定試験期間内に回答後、全科目の試験課題を一括して下記事務局のメールアドレスに送信してください。
・メール送信できない作品等の場合は、事務局へ郵送してください（修了認定試験期間の最終日の消印有効）。なお、試験の際、テキストや e-Learning 等を活用しながら取り組んでいただくことは可能です。

【提出期間】 第 2 期 11 月 13 日～11 月 27 日

【提出先】 メール opencecec@gijodai.ac.jp
郵送 〒500-8813 岐阜市明徳町 10 番地 杉山ビル 4F
岐阜女子大学 文化情報研究センター
「幼児教育コーディネータ養成講座」 事務局 宛

履修証明書

- 幼児教育コーディネータ養成コースの履修証明書を発行します。
修了認定試験に合格された方には、「履修証明書発送」の日を目安に郵送します。
※「履修証明プログラム」の詳細説明は、募集要項 p. 6 参照

※1 修了認定試験レポート作成について

(1) 修了認定試験レポートの内容

○修了認定試験が、科目ごとにあります。修了認定試験内容は、修了認定試験の受験期間前にメールにてお送りいたします。

○その際に、取り組み方法等について、説明文「修了認定試験取り組み方法について」をお送りいたします。その説明をお読みいただき、取り組んでください。

(2) 修了認定試験レポートの数

○修了認定試験レポートの数は、科目ごとに定めています。「修了認定試験取り組み方法について」をご確認ください。

(3) 修了認定試験レポートの字数

○修了認定試験レポートの字数は、科目ごとに定めています。「修了認定試験取り組み方法について」をご確認ください。

(4) 修了認定試験レポート作成方法

○修了認定試験の作成は、パソコンにて行ってください。手書きも可能です。(提出は、できる限りメールでの提出をお願いいたします。)

○修了認定試験の内容によっては、作品等を作る等がある場合があります。その場合は、科目の指示に従ってください。

(a) レポートの書き出しについて

- ① 1行目に科目名(例:教師論)を書いてください。
- ② 2行目はあけてください。
- ③ 3行目に、受講番号と氏名を記入してください。
- ④ 4行目はあけてください。
- ⑤ 5行目に1文字下げて、レポートを書き始めてください。

※手書きの場合も、上記に準拠してください。

(b) レポート用紙のスタイルについて

- ① A4用紙、横書きで書いてください。
- ② 1ページの印字は、1行40字×30行としてください。
- ③ 文字サイズは10.5ポイントとし、余白は、上・下・左・右とも30mmとしてください。
- ④ 印刷して郵送される場合は、両面印刷、片面印刷、どちらでも可とします。

※2 質問について

学修に関する質問は、以下の入力事項を入れ、「e-Learning」のシステムにて質問をお送りください。

入力事項:①受講番号②お名前③質問該当科目名(講座全般的なことの場合はなくても可)④質問内容

※質問方法の詳細は、スタートアップオンライン講座の際に説明いたします。

※3 テキストについて

・7科目のテキストと「幼児教育コーディネータ概論」のテキスト、計8冊が届きます。

※4 課題レポートの提出方法について（提出についての注意事項）

○課題レポートをパソコンで作成した場合は、メールにて提出してください。

○課題レポートを手書きで作成した場合や作品等がある場合には、郵送にて提出してください。

〔提出先〕 メール opencecec@gijodai.ac.jp

郵送 〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4F

岐阜女子大学 文化情報研究センター

「幼児教育コーディネータ養成講座 事務局 宛

〔注意事項〕

※郵便事故防止の為、簡易書留、レターパックなど、郵便配達過程が記録される形での郵送をお勧めします。

※5 学力に関する証明書について（1種免許状に上進される方）

○修得された単位の証明書（教員免許状申請用の「学力に関する証明書」）が必要な方は、本講座の履修証明書がお手元に届きましたら、「学力に関する証明書」の申込書に必要事項をご記入の上、下記申込先（学事課証明書係）に郵送、または、FAX にて申込みください。代金引換郵便にてお送りします。

※電話による申込みは受け付けておりません。

※幼児教育コーディネータ養成講座事務局とは申込先が異なります。

〔費用について〕

① 証明書 1 通 × 500 円

② 郵送料:120 円～（郵送物の重さ・速達等の条件によって異なります。）

③ 代金引換郵便手数料:468 円

※ 郵便物受け取り時に、郵便局配達員に現金で①～③の合計額をお支払いください。

〔申込書について〕

本学ホームページ「公開講座・幼児教育コーディネータ養成講座」から申込書をダウンロードしてください。

<https://gijodai.jp/openc/you-coordinator.html>

〔注意事項〕

「学力に関する証明書」は有料です。

発行までに2週間～1ヶ月程度かかります。

※長期休業期間や大学行事等の都合により、発行に時間を要する場合がありますので、ご了承ください。

〔申込先〕

〒501-2592 岐阜県岐阜市太郎丸 80 番地

岐阜女子大学 学事課証明書 係

T E L:058-229-2211(代表) F A X:058-229-2222

「幼稚園教諭一種免許状上進」を希望の方は、各自で、都道府県教育委員会に申請ください。申請方法や必要書類につきましても、都道府県教育委員会に尋ね、その指示に従ってください。

4. スタートアップオンライン講座について

◆ スタートアップオンライン講座の時間割

時 間	内 容	
9:00～9:30	オンライン受付	
9:30～9:40	オンラインに関する注意事項等連絡・説明	
9:40～10:50	幼児教育コーディネータとは	
10:50～11:00	休憩	
11:00～12:30	学習の進め方	
12:30～13:10	昼食・休憩	
13:10～13:55	遊びと文化Ⅰ・Ⅱ	＜教育職員免許法施行規則に定める科目区分等＞ 領域及び保育内容の指導法に関する科目
13:55～14:40	保育内容(表現)	
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:35	教師論	＜教育職員免許法施行規則に定める科目区分等＞ 教育の基礎的理解に関する科目
15:35～16:20	教育の方法・技術	＜教育職員免許法施行規則に定める科目区分等＞ 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導, 教育相談等に関する科目
16:20～16:30	休憩	
16:30～17:15	幼児理解	＜教育職員免許法施行規則に定める科目区分等＞ 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導, 教育相談等に関する科目
17:15～18:00	教育相談Ⅰ	

◆ スタートアップオンライン講座の受講方法

- ① スタートアップオンライン講座はオンライン（zoom）で行います。
- ② 受講には、各自カメラ付きのパソコンやノートパソコン・タブレット PC・スマートフォン並びにインターネットの通信環境が必要になります。
- ③ zoom のアクセス情報は、以下のとおりです。
- ④ zoom へのアクセスは、9：00～9：30 のオンライン受付の時間帯に行ってください。
※アクセスができない場合は、事務局へ電話をください。（TEL：058-267-5237）

< 8・11（金・祝）受講の方 >

8/11_ 幼児教育コーディネータ養成講座スタートアップオンライン講座

日 時 2023 年 8 月 11 日 09:00

ミーティング ID 828 5974 6070

パ ス コ ー ド 753506

招 待 リ ン ク

<https://us06web.zoom.us/j/82859746070?pwd=ZVFrNWJqcTVXT21va2tQN3pLOUdxQT09>



< 8・12（土）受講の方 >

8/12_ 幼児教育コーディネータ養成講座スタートアップオンライン講座

日 時 2023 年 8 月 12 日 09:00

ミーティング ID 856 9702 6879

パ ス コ ー ド 463992

招 待 リ ン ク

<https://us06web.zoom.us/j/85697026879?pwd=ZUIjdTYwc0RHQnBRdjZRMjhYVnM3QT09>



< zoom のダウンロード方法 >

【PC 版】

1. 検索サイトで「zoom」を検索→「zoom ミーティング」にアクセス
2. 1 のトップページの一番下に「ダウンロード」があります。
「ミーティングクライアント」をクリック
3. 「ダウンロード」を選択してダウンロード

【タブレット端末・スマートフォン】

1. アプリケーション入手のアプリより、無料ダウンロード

5. e-Learning による受講について

※e-learning システムのログインは、
スタートアップオンライン講座当日から可能です。
期間外のログインはできません。

1. e-Learning とは

e-Learning とはインターネットを利用した学習方法です。

インターネットを介して、授業動画を視聴することができます。受講生の都合のよいときに、自分の都合にあった場所で、何度でも視聴可能です。「いつでも、どこでも、何度でも」学ぶことができます。

2. e-Learning の利用手順

手順1) インターネットを閲覧するブラウザを起動します。

※ブラウザの例：Microsoft Edge Google Chrome Firefox Safari など

e-Learning の URL を入力し、e-Learning システムのサイトを開きます。

URL : エルエムエス ハイフン オージーダブリュ
`https://lms-ocw.gijodai.ac.jp/`



※本学公開講座のホームページの下図のボタンからも
e-learning システムのサイトへの移動が可能です。

岐阜女子大学
公開講座用 e-learning

手順2) e-learning System のログイン画面が表示されます。

手順3) 右の「学習画面ログイン」にログイン ID とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。





Gifu Women's University eLearning System

HOME | 学部 | 最近見た教材 | 過去の受講講座 | 設定

ヘルプ | ログアウト

120%

お知らせ

お知らせ

● 仮パスワードを変更してください。仮パスワードの有効期限は2024/03/31(日)です。

- 2020/05/28 (木) Adobe Flash Playerの動作利用について
- 2014/03/11 (火) 管理画面の紹介

学習状況

学習状況

受講期限間近

受講中

受講中の講座はありません。

未受講 (3)

- 保護言語(英語)
- 保護言語(英語)
- 英語

プロフィール

プロフィール

名刺

岐阜女子大学

所属

初等教育学専攻

NO IMAGE

←受講期限間近な科目が表示

←受講中の科目が表示

←未受講の科目が表示

ページ上部へ戻る

Gifu Women's University

[illegible]

手順 7) 講義内で提示された課題に取り組みます。

問い合わせ先等について

ー 本講座の内容に関すること ー

〒500-8813 岐阜女子大学文化情報研究センター

T E L : 058-267-5237

E-mail : opencecec@gijodai.ac.jp

※幼児教育コーディネータ養成講座専用アドレス

※応対可能時間 9 時～17 時 担当が不在の曜日もありますので、ご了承ください。

ー 学力に関する証明書について ー

〒501-2592 岐阜県岐阜市太郎丸 80 番地

岐阜女子大学 学事課証明書 係

TEL : 058-229-2211 (代表) FAX : 058-229-2222

科目概要

遊びと文化Ⅰ	1
遊びと文化Ⅱ	4
保育内容（表現）	7
教師論	12
教育の方法・技術	17
幼児理解	23
教育相談Ⅰ	27
幼児教育コーディネータ概論	31

遊びと文化 I	担当教員	単位数	授業形態
	眞喜志悦子	1	e-Learning

I 学修の概要

子どもの育ちの現状を踏まえながら、モンテッソーリ教育やニュージーランドの幼児教育について知識を深め、普段の遊びや生活動作、造形活動について視点を持つてみることで、適切な支援方法を考える。

II 学修到達目標

子どもたちの育ちの現状を改めて考え整理すると共に、遊びや生活動作の中での育ちをとらえ直すことができる。その際には、子どもの育ちを見る視点として遊びを捉え、考えの深化を図る。加えて、他国の教育方法を学ぶことをとおして、子どもの育ちをとらえ直す。そして、それを他者と共有し、発信する方法を深める。

III 行動目標

- (1) 現代の子どもの育ちを、良さと課題とに整理し、説明することができる。
- (2) 遊びや生活動作が子どもの育ちに与える影響について、具体的に説明することができる。
- (3) (2) に対して、具体的な支援方法を立案することができる。
- (4) 日本と他国の幼児教育の方法について、視点を定め、同異を説明することができる。
- (5) 保育ドキュメンテーションを作ることができる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- (4) 幼児の多様な発達課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。

第1講 子どもの育ちの現状について考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 子どもの育ちの現状

2. 学習到達目標

- (1) 子どもの育ちの現状について説明できる。
- (2) 子どもの育ちの現状について、園全体または他の保育士と対応策や支援策について語り合い、共有することができる。

3. 研究課題

「子どもの育ちの現状を語り合い、対応策や支援方法を考える」

- (1) 個人で「園にいる子どもの育ちについて気になったこと」について数分間時間を取り、付箋紙に思いっただけ書き出す
- (2) 付箋紙に書き出した内容について、皆で分類しながら模造紙に貼る。
- (3) 分類した項目ごとに、その対応策、支援方法について「個人として取り組めること」「園として取り組めること」「家庭や地域と連携して取り組むこと」について、意見を出し合う
- (4) 気になる子への対応策や支援方法について、明日から心がけることを発表する

第2講 教育力の低下について考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 子どもの育ちの変化の社会的背景
- (2) 親の子育て環境などの変化 一家庭の教育力の低下

2. 学習到達目標

- (1) 子どもの育ちの変化の社会的な背景について説明できる。
- (2) 地域社会の教育力の低下について具体的に説明できる。
- (3) 家庭の教育力の低下について具体例を挙げて説明できる。

3. 研究課題

- (1) 子どもの育ちの変化の社会的な背景について、次の2つの観点から具体例を挙げながら説明しなさい
観点（地域社会の教育力の低下・家庭の教育力の低下）

第3講 遊びや生活動作のなかでの育ちを考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 10年前よりも発達の課題が増えてきている
- (2) 不器用さに関わる発達障害の種類
- (3) 手先の不器用さや運動面に遅れがある子の理解と対応

2. 学習到達目標

- (1) 遊びや生活動作が子どもの育ちに与える影響について説明できる。
- (2) 発達性協調運動障害について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 遊びや生活動作が子どもの育ちに与える影響について説明しなさい。
- (2) 発達性協調運動障害の子に対する支援についてあなたの考えを記述しなさい。

第4講 視点を持って造形活動をみる

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 正しく椅子に座る
- (2) おりがみをおる
- (3) はさみをつかう
- (4) のりをつかう
- (5) テープをつかう

2. 学習到達目標

- (1) 造形活動をみる視点について説明できる。
- (2) 造形活動の様子から、その子に応じた支援方法を検討することができる。

3. 研究課題

- (1) 造形活動の様子から、気になる子の例を挙げ、その子に応じた支援方法を検討しなさい

第5講 モンテッソーリ教育から学ぶ

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) モンテッソーリ教育とは
- (2) モンテッソーリ教育の実際
- (3) 遊びの活動のよここびは、このような現実との接触によって増大される

2. 学習到達目標

- (1) モンテッソーリ教育とは何かを説明できる。
- (2) モンテッソーリ教育と自身が勤務している園とを比較し、発達に即した子どもの支援方法について検討できる。

3. 研究課題

- (1) モンテッソーリ教育とはどのような教育かを説明しなさい。
- (2) モンテッソーリ教育と自身が勤務している園とを比較し、発達に即した子どもの支援方法について 400 字程度で記述しなさい。

第6講 他民族国家ニュージーランドの保育

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) ニュージーランドの「Te Whāriki (テ・ファリキ)」
- (2) 「Te Whāriki」のカリキュラムの構成
- (3) ニュージーランドにおける保育の実際
- (4) 学びや成長の見える化 ～Learning Story (ラーニング・ストーリー)～
- (5) テ・ファリキの課題

2. 学習到達目標

- (1) ニュージーランドの幼児教育について日本の幼児教育との違いについて検討できる。
- (2) 対象児を一人選び、その子の“今日のラーニング・ストーリー”を作成できる。

3. 研究課題

- (1) ニュージーランドの幼児教育について日本の幼児教育との違いについて検討しなさい。
- (2) 対象児を一人選び、その子の“今日のラーニング・ストーリー”を作成しなさい。

第7・8講 発信し、共有する保育

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 保育ドキュメンテーションの5原則
- (2) 保育ドキュメンテーションの作成例
- (3) 発信する保育 ～手書きかデジタルか～
- (4) 写真を使った研修例

2. 学習到達目標

- (1) 保育ドキュメンテーションを作成する意義の5原則について説明できる。
- (2) 保育ドキュメンテーションを作成し、保育を発信・共有できる。

3. 研究課題

- (1) 保育ドキュメンテーションを作成する意義について説明しなさい。
- (2) 保育ドキュメンテーションを作成し、本日の園の様子を共有・発信しなさい。(共有の方法は自由とする)

遊びと文化Ⅱ	担当教員	単位数	授業形態
	眞喜志悦子・玉城哲人	1	e-Learning

I 学修の概要

フレーベルの恩物について知識を深め、ちぎる・切る・折るといった造形活動についてあらためて考えるとともに、フランダースや OSIA が開発した行動カテゴリーについて理解し、自身の園での課題を解決する方策を考える。

II 学修到達目標

フレーベルの恩物について知識を深め、その意義を捉え直し、普段の保育に活かすことができる。さらに、フランダースや OSIA が開発した行動カテゴリーを用いた観察・分析の手法について学び、それを自身の園での課題解決に活用する。

III 行動目標

- (1) フレーベルの恩物の意義について理解することができる。
- (2) ちぎる、切る活動についてあらためて考え、今後の保育に取り入れようとする。
- (3) 折る活動についてあらためて考え、今後の保育に取り入れようとする。
- (4) 普段の保育をふりかえり、自らの課題に沿った行動カテゴリーを作成することができる。
- (5) 気になる子（状況）への対応策を検討することができる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- (4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- (5) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

第1講 フレーベルの幼児教育とおりがみ

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) フレーベル教育と恩物
- (2) 恩物としてのおりがみ
- (3) 感性と表現どちらも大切

2. 学習到達目標

- (1) フレーベルの恩物の意義について理解することができる。
- (2) 子どもの感性と表現を育てることの大切さを理解し、その環境を整えるための方策について検討することができる。

3. 研究課題

- (1) フレーベルの恩物について感じたことや考えたことを述べなさい。
- (2) 子どもの感性と表現の両方を身につけさせるために、どのような環境を整備する必要があるでしょうか。人的環境、物的環境、空間的環境、雰囲気などに留意しながら 400 字程度で記述しなさい。

第2講 ちぎること・切ることについて考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 手でちぎる
- (2) はさみで切る
- (3) はさみの練習方法
- (4) 廃材をつかった型紙づくり

2. 学習到達目標

- (1) ちぎること、切ることについての意義について説明できる。
- (2) ちぎる、切る活動についてあらためて考え、今後の保育に取り入れようとする。

3. 研究課題

- (1) ちぎること、はさみを使ってきることの意義をあらためて考えてみましょう。
- (2) ここで学んだことを今後の保育にどのように取り入れますか。具体的な活動を例にあげながら 400 字程度で述べてください。

第3講 折ることについて考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 自由に折る
- (2) ぴったり折る
- (3) 折って広げる新しい世界
- (4) 折ることで伸びたり縮んだり
- (5) 平面から立体へ

2. 学習到達目標

- (1) 折ることについての意義について説明できる。
- (2) 折る活動についてあらためて考え、今後の保育に取り入れようとする。

3. 研究課題

- (1) 折ることの意義をあらためて考えてみましょう。
- (2) ここで学んだことを今後の保育にどのように取り入れますか。具体的な活動を例にあげながら 400 字程度で述べてください。

第4講 親子の造形活動における行動カテゴリー

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 「動く紙おもちゃ作り教室」とは
- (2) 行動カテゴリーに関する基礎研究
- (3) 「動く紙おもちゃ作り」教室におけるカテゴリーとは
- (4) 保育現場における行動カテゴリーの利用

2. 学習到達目標

- (1) フランダースや OSIA などのカテゴリーについて説明できる。
- (2) 普段の保育をふりかえり、自らの課題に沿った行動カテゴリーを作成することができる。

3. 研究課題

- (1) 普段の保育活動のなかで、気になる子や気になる場所がありますか。それはどのような行動（状況）ですか。なるべく具体的に記述してください。
- (2) 気になる子や場所の状況を把握するためのカテゴリーを作成してください。

第5・6講 活動原簿表を利用した記録方法

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 5 秒間隔の静止画
- (2) 言語活動の記録
- (3) 動画（ビデオ映像）による行動記録
- (4) 共同作業の記録（活動原簿表の作成）

2. 学習到達目標

- (1) 教育活動の記録としての言語記録やビデオ記録の取り方について考える。
- (2) 実際の活動を記録し、記述することができる。

3. 研究課題

前の講で設定した行動カテゴリー表を使って、その活動における行動（状況）記録とカテゴリーのコードを記入しましょう。

- (1) 対象をビデオカメラで撮影してください。
- (2) 5 秒間隔で行動（状況）を記録して、コードを書き入れてください。
 - ・たとえば、※には観察開始（0 分 0 0 秒）から 5 秒後（0 分 0 5 秒）までの行動（状況）をできるだけくわしく記述する。
 - ・コードは、5 秒間のうちで多くを占めていたものを必ず 1 つだけ選択し記述する。

第 7・8 講 ビデオ映像の分析と行動カテゴリー分析

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 行動のコード化データの集計利用 ～親と子の行動コードの出現頻度～
- (2) 出現頻度から見た行動

2. 学習到達目標

- (1) 行動カテゴリーのコード集計による分析ができる。
- (1) 気になる子（状況）への対応策を検討することができる。

3. 研究課題

- (1) 前の講で作成した活動原簿表をもとに「出現数」「出現率（%）」を集計して記録してください
- (2) 1 の結果からどのような傾向がみられるかを考え、記述してください。また、活動原簿表にある活動（状況）記録メモも参考にしながら、気になる子（状況）への対応策を検討して 400 字程度で記述してください。

保育内容（表現）	担当教員	単位数	授業形態
	中島法晃・玉城哲人・赤嶺絵吏子	2	e-Learning

I 学修の概要

子どもの作品や造形指導の実態から、子どもの表現力やコミュニケーション能力、探究心、考える力の養成研究を考える。また、子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)や、物語と音楽を組み合わせることの効果について考える。

II 学修到達目標

- ・子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)を実現する。
- ・紙芝居の創作と表現方法を研究する。

III 行動目標

- (1) 表現方法を考えながら紙芝居を創作できる。
- (2) 子どもの紙芝居の創作授業をデザインできる。
- (3) 子どもの紙芝居のデジタルアーカイブを行うことができる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 幼稚園教育要領領域「表現」を幼児の発達段階に即して理解することができる。
- (2) 幼児の個性に即して適切な支援をすることができる。
- (3) 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見通した造形教育を計画することができる。
- (4) 創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。
- (5) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。
- (6) 個々の幼児のみならず、園全体のことを考えたうえで課題意識を表象化して、研修課題をテーマを絞り込むことができる。

第1講 子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼稚園教育要領領域「表現」について
- (2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領領域「表現」について、内容とねらいを理解することができる。
- (2) 幼児の表現に共感し個々に合った支援方法について考えることができる。

3. 研究課題

- (1) 園で取り組んでいる絵画造形活動を挙げ、活動のねらいと幼児の表現について自身の考えを述べなさい。
- (2) クラスでの共同制作活動において、個と集団における支援について自身が留意している点を述べなさい。

第2講 絵画・造形遊びの教材開発に取り組む

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 透明を発見し空間を認知するための素材の開発
- (2) 実践の概要
- (3) 実践から得た省察

2. 学習到達目標

- (1) 幼児に身に付けさせたい力について考え、絵画・造形遊びの教材開発をすることができる。

3. 研究課題

- (1) 日常的に行っている絵画・造形遊びの活動を発展させて、幼児に身に付けさせたい力や、自身が探求したいと考える独自の活動を計画しなさい。

第3講 幼児の感性を育む鑑賞教材としてのライブペインティングの可能性

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児と感動体験
- (2) 幼児の芸術体験
- (3) ライブペインティングとは
- (4) 事例の概要
- (5) 題材の概要
- (6) アンケート分析

2. 学習到達目標

- (1) 表現方法および鑑賞教材としてのライブペインティングを活用することによる幼児の感性の育まれ方の具体を説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 幼児の創造性を育むために園で行なっている芸術鑑賞等の活動について、その概要を述べよ。
- (2) ライブペインティングをあなたの園で行うとしたらどのような題材を園児に見せてあげたいと考えるかを述べよ。

第4講 紙芝居の創作教育を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 紙芝居の歴史概要
- (2) 幼稚園教諭が紙芝居を作成すること
- (3) 紙芝居作成の意義

2. 学習到達目標

- (1) 紙芝居の歴史について理解することができる。
- (2) 幼児教育現場における紙芝居の活用実践から、幼児にとっての紙芝居の教育的効果について説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 紙芝居の歴史から、現代の幼児教育における紙芝居のあり方までを概観し、園でのあなたの紙芝居活用の仕方や工夫について述べよ。

第5講 紙芝居創作と幼児教育観を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 紙芝居のテーマ
- (2) 幼児教育観を表現することの意義について

2. 学習到達目標

- (1) 紙芝居を制作するにあたり、自身の教育観・保育観について明確にし、他者に伝えることができる。
- (2) 様々な紙芝居の種類を知ること、実践的に活用することができる。

3. 研究課題

- (1) 幼稚園教諭として実際に紙芝居を制作することの意義や効果について、あなたの考えを述べよ。
- (2) 幼児教育・保育をするうえで、これだけは譲れないという、一番大事にしていることを述べよ。
- (3) あなたが一番大事にしている、「子どもに伝えたいこと、どんな人に成長してほしいか」について述べよ。

第6・7・8・9講 紙芝居を制作する

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 紙芝居の絵の描き方

2. 学習到達目標

- (1) 紙芝居のテーマとして「子どもに伝えたいこと」を明確にし、紙芝居8場面の画面構成、脚本を考えることができる。

3. 研究課題

- (1) 子どもを中心とした視点から、自身の幼児教育・保育について振り返り、自己評価と課題点について述べよ。
- (2) 現代における子どもの生活習慣や、子どもと地域社会との関わりについて等、あなたが注目している子どもに関わる諸問題について取り上げ、自身の考えと今後の課題について述べよ。
- (3) 上記の課題のあなたの回答から、紙芝居として表現できそうな考えやキーワードを書き出し、あらすじやコマ割りを仕上げる。

第10講 物語を伝えるための音楽表現法

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 人の感情を揺さぶる音楽の力
- (2) 「ピーターとおおかみ」
- (3) 鑑賞活動の意義と留意点

2. 学習到達目標

- (1) 西洋音楽における情景や心情の描写法について説明できる。
- (2) プロコフィエフ作曲の音楽童話「ピーターとおおかみ」から、登場人物の特徴や心情の変化、情景描写を表現する音楽の工夫等を聴取することができる。
- (3) 鑑賞活動を展開するための指導案を作成することができる。

3. 研究課題

- (1) 「ピーターとおおかみ」を鑑賞して、キャラクターの主題や心情の変化、また情景描写を表すための音楽表現の工夫についての気づきを文章で説明しなさい。
- (2) 「ピーターとおおかみ」を教材とし、身体活動を取り入れた鑑賞活動を展開するための指導案を作成しなさい。

第11講 音楽の曲想を生み出す仕組み

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 音楽が伝えるメッセージ
- (2) 音楽要素と曲想の関わり
- (3) 《かえるのがっしょう》のアレンジで学ぶ音楽要素
- (4) 既存の楽曲をアレンジすること
- (5) アレンジ活動における留意点

2. 学習到達目標

- (1) 音楽を形づくる諸要素について説明できる。
- (2) 音楽の諸要素や表現方法と音楽の曲想との関わりについて説明できる。
- (3) 既存曲の音楽要素を変化させ、求める曲想の音楽へとアレンジすることができる。

3. 研究課題

- (1) 下記の指定曲を、さまざまな曲想の音楽になるようアレンジをして演奏しなさい。
【指定曲】《きらきらぼし》《チューリップ》《ぶんぶんぶん》《メリーさんのひつじ》
- (2) (1)の課題を通して、音楽要素や表現方法を変化させることで、どのように曲想が変化したか、文章や図式にまとめなさい。

第12講 キャラクターの主題づくり

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) オリジナルの主題づくり
- (2) キャラクター像の明確化
- (3) 音階と教会法
- (4) 拍子
- (5) 主題の旋律づくり

2. 学習到達目標

- (1) 音階と教会法について、それぞれの音楽的特徴を説明できる。
- (2) 基本的な拍子について、それぞれの音楽的特徴を説明できる。
- (3) キャラクターを表現する主題をつくることができる。

3. 研究課題

- (1) 音階と法を弾き、それぞれの特徴を書き出さない。
- (2) 4/4, 2/4, 3/4, 6/8 それぞれの拍子で作られている童謡を数曲選び、歌唱、演奏を通して各拍子から感じられる特徴を書き出さない。
- (3) 異なる特徴を持つキャラクター像を3つイメージし、それらの特徴を図式化さない。そして、既習知識と絡めながら各キャラクターの主題となる旋律を創作さない。なお旋律は2～4小節程度とする。

第13講 音楽における動きや心情の表現法

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 音楽と身体に関連性
- (2) 《動物の謝肉祭》
- (3) 人と音楽の速度とに関連性
- (4) 旋律の上行・下行進行と、空間感覚や感情とに関連性
- (5) 人の動きとアーティキュレーション、またはリズムの関連性
- (6) 強弱とエネルギーの関連性
- (7) アクセント的な音やリズムによる注目効果
- (8) 音楽で物語を表現するという活動
- (9) 総合的な表現活動

2. 学習到達目標

- (1) 音楽と身体に関連性を説明できる。
- (2) キャラクターの動きや心情を表現する音楽をつくるためのアプローチ法を説明できる。
- (3) 音楽づくり活動を展開するための指導案を書くことができる。

3. 研究課題

- (1) さまざまな人の動きや心情の変化を想定し、それを表現するための音楽を創作さない。そして、動きや心情を表現する表現の工夫を図式化してまとめない。
- (2) キャラクターの動きや心情を表す音楽づくり活動を展開するための指導案を作成さない。

第14講 子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)の設計を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 子どもの「想像力・発想力」を働かせて
- (2) 絵の役割
- (3) 「手づくり紙芝居」の教材化
- (4) 「手づくり紙芝居」の制作

2. 学習到達目標

- (1) モノの見方・感じ方・考え方・表し方などの良さを生かし、主体的な表現活動「手づくり紙芝居」の制作方法を考えて実践できる。

3. 研究課題

- (1) 子どものモノの見方・感じ方・考え方・表し方などの良さを生かし、主体的な表現活動「手づくり紙芝居」の制作方法を考えて、子どもと一緒に「手づくり紙芝居」の制作をこなさい。

第15講 子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)の評価

1. 概要(何を学ぶか)

- (1) 構成主義的な学習
- (2) 子どもによる紙芝居の創作と発表会

2. 学習到達目標

- (1) 子どもと共に創作した紙芝居の読み聞かせ発表会を行う計画を立てることができる。

3. 研究課題

- (1) 子どもと共に創作した紙芝居発表会を計画しなさい。
- (2) 子どもの作品を撮影しアーカイブしなさい。

教師論	担当教員	単位数	授業形態
	吉村希至・齋藤陽子・名渡山よし乃	2	e-Learning

I 学修の概要

教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。そのために、幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質・能力を考える。

II 学修到達目標

教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質・能力を深化させる。

- ①教師として、教育方法を支える教育思想や先駆的な教師の在り方から、教師の資質・能力について考える。
- ②専門職としての教員に求められる資質・能力について学修し、「実践的指導力」について理解するとともに、自らの教員としての在り方について省察する。

III 行動目標

- (1) 教育方法を支える教育思想の歴史的変遷を説明することができる。
- (2) 教師として先駆的役割を果たした先人の研究や実践を踏まえて、自己の教職観や教育実践策を述べることができる。
- (3) 幼稚園教育要領等の趣旨、目標、内容などや、自園の課題を踏まえて、園のカリキュラム・マネジメントについて具体的に提案できる。
- (4) 自園の保育実践の評価を踏まえて、指導改善を実現するための具体的実践策を提案できる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 教育の先駆者の教育思想や教育方法を踏まえた教師像をもつことができる。
- (2) 現代の教育方法について理解し、目指す教育方法を共有化できる。
- (3) 教育目標の実現に向けた教育の枠組みの考え方を身に付けることができる。
- (4) 児童中心主義の考え方の原点を学ぶことができる。
- (5) 倉橋惣三の保育論を通して、幼児教育の「不易」について理解することができる。
- (6) 21世紀型保育の在り方の重要な視点について理解することができる。
- (7) 野村芳兵衛の保育論を通して、発達段階に即した保育の在り方について理解することができる。
- (8) 幼稚園教育要領等のねらいを達成し内容を適切に指導する際の重要な点について理解することができる。
- (9) 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
- (10) 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えらるとともに、適切に対応することができる。

第1講 先人たちの教育方法の歴史的変遷

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育方法の歴史
- (2) 中世の教育方法
- (3) 近代の教育方法
- (4) 現代の教育方法
- (5) 日本における幼児教育の思潮
- (6) 教育の指導の枠組として

2. 学習到達目標

- (1) 先人たちの教育思想や教育方法の歴史的変遷を理解することができる。
- (2) 教育の方法学の歴史を、教育の指導の枠組みで説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 先人の教育方法の変遷を整理しなさい。
- (2) 整理したことを基に、自己の教職観について考察しなさい。

第2・3講 「日本の幼児教育の父」と呼ばれる倉橋惣三の言葉から教師論を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 日本の幼児教育における理論と実践の先駆者：倉橋惣三
- (2) 倉橋惣三の言葉にてらして、幼児教育を問い直す
- (3) 倉橋惣三の言葉から、これからの幼児教育を考える

2. 学習到達目標

- (1) 日本の幼児教育における倉橋惣三の理論と実践の業績を説明できる。
- (2) 倉橋惣三の言葉を取り上げ、それに関わる幼児教育でのエピソードが説明できる。
- (3) 倉橋惣三の考え方を基に、これからの幼児教育の方向を説明できる。

3. 研究課題

- (1) 「日本の幼児教育の父」と呼ばれる倉橋惣三について語りなさい。
- (2) 倉橋惣三の言葉を取り上げ、その言葉に関わる子どもの具体的なエピソードや幼児教育における実践事例を取り上げて説明しなさい。
- (3) 倉橋惣三の言葉に照らして、自らの実践や姿勢を振り返り、今後の自己の幼児教育の在り方を具体的に説明しなさい。

第4・5講 野村芳兵衛の教育実践から幼児理解を考える

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児教育に求められる専門性 ～幼児理解が保育の出発点～
- (2) 幼児教育の理論構築と実践に取り組んだ野村芳兵衛
- (3) 野村芳兵衛の研究や実践から幼児理解について学ぶ
- (4) 一人一人の特性や発達過程に応じて見通しをもって保育ができる教師へ
- (5) 幼児を理解する力を高める教師へ

2. 学習到達目標

- (1) 幼児理解について説明できる。
- (2) 野村芳兵衛の幼児理解の取り組みについて説明できる。
- (3) 子どもの発達過程について説明できる。
- (4) 幼児理解を深めるために自分が取り組もうとする記録の方法を説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼児理解についての自分の考えを述べなさい。
- (2) 幼児教育の理論と実践を進めた野村芳兵衛の保育診断や記録について説明しなさい。

- (3) 子どもの発達過程について説明できる。
- (4) 本稿全体を踏まえて、幼児理解を図るために、自分が決めた方法で、記録を書く実践をこなさい。

第6講 教師としての歩み、生き方を考える ～大村はま、齋藤喜博 から学ぶ～

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 大村はま 「教師として当然の姿」を問う
- (2) 齋藤喜博 「絶えず豊かに大きく自分を変革できる人間に」
- (3) 教師として、自己の歩み、生き方を問い直す

2. 学習到達目標

- (1) 大村はまが説く教師像について説明できる。
- (2) 齋藤喜博が説く教師像について説明できる。
- (3) 自らの教師としての歩み、生き方を説くことができる。

3. 研究課題

- (1) 大村はまが説く教師像について自分の考えを述べなさい。
- (2) 齋藤喜博が説く教師像について自分の考えを述べなさい。
- (3) これまでの学修を踏まえて、今後の自らの教師としての歩み、生き方について述べなさい。

第7講 幼稚園教育要領の趣旨と自園の実態を踏まえた教育課程の編成について

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育課程の役割
- (2) カリキュラム・マネジメントの実施
- (3) 自園の教育目標・保育目標と教育課程の編成
- (4) 教育課程編成の具体的な手順について
- (5) 教育課程の編成において重点とすべき事項

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた教育課程の役割と編成方法を理解し説明できる。
- (2) 自園の実態を踏まえた教育課程の見直しをし、改善することができる。

3. 研究課題

- (1) 自園の教育目標が、実態に応じ、具体的でわかりやすいか振り返ってみよう。
- (2) 自園の教育課程が園児や地域の実態に応じているか、改善するところがないかを確かめ、必要に応じて見直してみよう。

第8講 幼稚園教育要領の趣旨と自園の実態を踏まえた指導計画の作成について

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成
- (2) 指導計画の作成の基本的事項

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画作成の基本的な考え方や手順等が理解できる。
- (2) 長期の指導計画、短期の指導計画の作成の考え方や手順、作成上の留意事項等が理解できる。

3. 研究課題

- (1) 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開文部科学省令和3年2月」を参考にして自園の教育課程と指導計画、長期の指導計画から短期の指導計画へのつながりを確認しよう。

第9講 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメントの実施について

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼稚園における学校評価に関する考え方と特性
- (2) 幼稚園における学校評価の実際
- (3) 学校評価に関連づけたカリキュラム・マネジメントの実施

2. 学習到達目標

- (1) カリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、説明することができる。
- (2) 自園において、適切にカリキュラム・マネジメントと関連付けながら学校評価を実施することができる。

3. 研究課題

- (1) 自園の学校評価とカリキュラム・マネジメントとの実施状況を振り返り、関連づけて実施しているか、また、どのように関連づけて実施しているかまとめよう。

第10講 幼児理解に基づいた評価の実際

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児理解と評価について
- (2) 評価の妥当性や信頼性を高めるための工夫

2. 学習到達目標

- (1) 幼児理解と評価の考え方を理解し、説明することができる。
- (2) 評価の妥当性と信頼性を高める工夫ができ、幼稚園幼児指導要録などで、幼児についての評価を適切に引き継ぐことができる。

3. 研究課題

- (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とはどのような姿なのかを小学校の教師に伝えたと仮定して、自園の幼児の写真を用いて説明文を作ってみよう。

第11・12・13講 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る ～接続期におけるカリキュラム・マネジメント～

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児教育と学校教育の改革
- (2) 「幼・保・こ」における教育と小学校教育との接続について
- (3) アプローチ期におけるカリキュラム・デザイン
- (4) スタート期におけるカリキュラム・デザイン
- (5) 幼保こ&小学校との連携に向けた新たな方向

2. 学習到達目標

- (1) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることの意味を説明できる。
- (2) 接続期のカリキュラムの計画や実践を具体的に説明できる。
- (3) 学修をもとに、自らのカリキュラムの改善ポイントを説明できる。

3. 研究課題

- (1) 接続期におけるカリキュラム・マネジメントの必要性について説明しなさい。
- (2) 学習したモデルや勤務先のカリキュラムなどを参考にして、工夫・改善した具体的なアプローチカリキュラムを作成しなさい。
- (3) スタート期における教育の進め方や配慮すべきことなどについて、具体例を挙げて説明しなさい。
- (4) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることの意味について、自らの実践や考えを入れて説明しなさい。

第14講 日常的な保育の改善に向けた園内研修体制

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 園内研修の必要性
- (2) 中堅教諭の役割
- (3) 園内研修の内容

2. 学習到達目標

- (1) 日常的な保育を評価し、改善につなげる園内研修の在り方を理解することができる。
- (2) 「チームとしての園」の在り方から、自園の実践的園内研修体制の改善方策について提言することができる。

3. 研究課題

- (1) 自園の保育実践から、課題と考えられることをあげ、園内研修の中でどのように改善を図るか、計画をたてる。

第15講 自ら学び続ける教師へ ～教員に求められる資質能力の向上を目指して～

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教員に求められる資質能力
- (2) 幼稚園教員に求められる資質能力
- (3) 自ら学び続ける幼稚園の教師を願って

2. 学習到達目標

- (1) 教員に求められる資質能力について説明できる。
- (2) 幼稚園教員に求められる資質能力について説明できる。
- (3) キャリアステージに応じた自らの資質能力について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 教員に求められる資質能力について説明しなさい。
- (2) 幼稚園教員に求められる資質能力について説明しなさい。
- (3) キャリアステージに応じた資質能力に関する自らの課題は何か明確にし、それについてどう自己研修や実践に取り組んでいくか、その方策を作成しなさい。

教育の方法・技術	担当教員	単位数	授業形態
	久世均・齋藤陽子・又吉斎	2	e-Learning

I 学修の概要

21 世紀の知識基盤社会における「学力」は「他者と協働しつつ創造的に生きていく」ための資質・能力の育成である。そのために、学習活動では、他者と共に新たな知識を生み出す活動を引き出しつつ深い知識を創造させていく経験を、数多く積ませることが重要である。また、情報化や国際化が進み、社会が大きく変化する中で、学校、そして教師は様々な変化に直面している。児童に求められる学力の変化や授業での ICT 活用など、教師はどう対応していけばよいのでしょうか。本講座では「インストラクショナルデザイン」を手がかりに、幼児教育の基礎としてのインストラクショナルデザインについて考える。

II 学修到達目標

知識基盤社会とは、新しい知識やアイデア、技術のイノベーションがほかの何よりも重視される社会である。そのイノベーションのために、他者とのコミュニケーションやコラボレーション（協働、協調）が重視され、それらが効果的・建設的に行えるように、人と人を繋ぐコミュニティや ICT の役割に注目が集まっている。つまり、現在決まった答えのないグローバルな課題に対して、大人も子供も含めた重層的なコミュニティの中で、ICT を駆使して一人ひとりが自分の考えや知識を持ち寄り、交換して考えを深め、統合することで解を見出し、その先の課題を見据える社会へと、社会全体が転換しようとしている。ここでは、その高度情報社会とそれに応じて求められる資質や能力について考える。

III 行動目標

教育情報とは、検索利用可能な形で集積され、流通される情報を第一義的なものと考え、狭義には学資教材情報を、広義には、教育研究情報や教育の管理経営の情報その他を含めて考えることが情報管理論的に妥当である。こうした教育情報のシステムは、すでに学術的には開発され、試行されているものがあるので、これを基準に、教育情報について体系的に考察する。

- (1) 「インストラクショナルデザイン」を手がかりに、効果的・効率的・魅力的な授業づくりや幼児教育について考え、自分の考えを具体的に述べることができる。
- (2) 21 世紀に求められる学力を育む新たな授業と評価を、背景や実践事例を紹介しながら考え、説明できる。
- (3) 目標を分析して構造がわかると、評価規準ができる。目標の構造がわかるというのは、評価規準のなかで、重要度を決定することを考える。
- (4) 「教えないで学べる」研修の視点を考え、整理し提示する。
- (5) 協働学習の手法の一つである「ジグソー学習法」を経験し、学習者自身で知識を統合して答えを出す学習活動過程について理解を深め、その効用を考える。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
- (2) インストラクショナルデザインの第 1 原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。
- (3) e-Learning により学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
- (4) 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
- (5) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- (6) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。
- (7) 自からの ICT 活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。
- (8) 自園の ICT や情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

第1講 教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育方法の歴史としての行動主義的学習観について
- (2) 教育方法の歴史としての認知主義的学習理論について
- (3) 教育方法の歴史としての構成主義的学習理論について
- (4) 教育方法の歴史としての社会構成主義的学習理論について
- (5) これからの学びにおける、学習者の学びに向かう態度とは何か

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領・学習指導要領の転換が図られていることを理解し、説明することができる。
- (2) 現在の幼稚園教育要領・学習指導要領において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示しながら説明できる。

3. 研究課題

- (1) 教育方法の歴史としての、学習観の変遷を、学習者の具体的な姿を示し、述べなさい。
- (2) 現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。

第2講 インストラクショナルデザイン

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) インストラクショナルデザインとは
- (2) 教材開発とインストラクショナルデザイン
- (3) ADDIE

2. 学習到達目標

- (1) インストラクショナルデザインとは何か説明できる。
- (2) ADDIE モデルについて事例をあげて説明できる。

3. 研究課題

- (1) ADDIE のプロセスを検討し、折り紙を折れるようになる教材を作成しなさい。

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) システム的アプローチ
- (2) 研修を設計する
- (3) TOTE モデル
- (4) カークパトリックモデル

2. 学習到達目標

- (1) システム的なアプローチ（システムズアプローチ）の意味を理解し、説明できる。
- (2) システムズアプローチの理論を基に、研修講座の設計の基本的な考え方を整理し、述べることができる。

3. 研究課題

- (1) システムズアプローチとは、どのような考えかを整理して、述べなさい。
- (2) システムズアプローチの考えを基に、自身が行うと仮定する研修講座の設計の基本的な考え方を整理し、述べなさい。

第4講 21世紀に求められる学力と学習環境

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 知識基盤社会で求められる力
- (2) 21世紀型学力を育成する授業への変革
- (3) 授業・教育課程のすがた
- (4) 評価のすがた
- (5) 取り組み事例

2. 学習到達目標

- (1) 21世紀に求められる学力について説明できる。
- (2) 資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。

3. 研究課題

- (1) 知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。
- (2) 知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。
- (3) 変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。

第5講 研修の分析と設計

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 研修の目標分析
- (2) 教育目標の分類学
- (3) 教材の構造
- (4) 研修の設計・開発の手順

2. 学習到達目標

- (1) 何を学ぶのか、そのための研修のあり方について説明できる。
- (2) システム的な研修設計・開発の手順を5つに分けて説明できる。

3. 研究課題

- (1) ご自身が園の中で研修を行うとするならば、何を学ぶ研修とするのかを具体的に述べなさい。学ぶことを実現するために、どのような研修とするのか、その方針を述べなさい。
- (2) (1)で述べた研修を基に、システム的な研修設計について、①何をしたいのか②何学びたいか③何を指導したいか④どのような順序で学ぶのか⑤それを指導するために、何がいるのか、の5つに分けて、具体例を示しなさい。

第6講 学習目標のデザイン

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 学習目標の明確化
- (2) 学習目標の分類
- (3) 明確な学習目標を設定する

2. 学習到達目標

- (1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り挙げて説明できる。
- (2) ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明できる。
- (3) 明確な学習目標について、研修を仮定し、具体的に説明できる。

3. 研究課題

- (1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。
- (2) ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) 明確な学習目標について、具体的な単元において設定しなさい。

第7講 e-Learningの方法と技術

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) e-learning
- (2) e-learning 開発の方法

2. 学習到達目標

- (1) e-Learning とは、どのような学び方であるのか、そしてどのような特徴を持っているのかを、具体的な研修を例に、説明できる。
- (2) e-Learning を活用した研修を、具体的に立案できる。

3. 研究課題

- (1) e-Learning とは、どのような学び方であるのか、そしてどのような特徴を持っているのかを、具体的な研修を例に述べなさい。
- (2) e-Learning を活用した研修を、具体的に立案しなさい。

第8講 ハイブリッド型授業の方法と技術

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 遠隔教育
- (2) e-learning と遠隔授業を組み合わせた授業構成
- (3) 遠隔教育の必要性
- (4) 遠隔協働学習のすすめ

2. 学習到達目標

- (1) ハイブリット型授業について具体的に説明できる。
- (2) ハイブリット型授業で授業設計ができる。

3. 研究課題

- (1) 遠隔教育の変遷について説明しなさい。
- (2) ハイブリット型授業の3つのパターンについて、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。
- (4) ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。
- (5) 遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。
- (6) 遠隔協働学習を企画し、実際にやってみなさい。

第9講 魅力ある研修をつくる

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 研修を始める前に
- (2) 講師の指導力
- (3) ガニエの9教授事象
- (4) 講師が身に付けるべきスキル
- (5) 受講者に身に付けさせたいスキル
- (6) 学習環境を整える

2. 学習到達目標

- (1) 魅力ある研修をつくる講師の指導力について説明できる。
- (2) ガニエの9教授事象について具体例をあげて説明できる。

3. 研究課題

- (1) ガニエの9教授事象をもとに、魅力ある研修をつくるのにどのような研修の展開をするとよいのかについて、具体的な教育・保育活動をあげながら、グループで話し合って発表しなさい。

第10講 学習意欲を高める

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 動機づけを高める要因
- (2) ARCS モデル
- (3) アンドラゴジーとペダゴジー
- (4) 学習意欲を高める指導法
- (5) 学ぶ意欲を保ち続けるために

2. 学習到達目標

- (1) 学習意欲を高める指導法について説明できる。
- (2) ジョン・M・ケラーの ARCS モデルについて具体的に説明できる。
- (3) アンドラゴジーをもとにして学校式教育から大人の学び支援について、その違いを具体的に説明できる。

3. 研究課題

- (1) アンドラゴジーをもとにして、学校式教育から大人の学び支援について、その違いを具体的に5つあげて、KJ 法を使って、グループごとに分類し、説明しなさい。
- (2) 各グループで、学習の動機づけの具体的な方法をあげて、ジョン・M・ケラーの ARCS モデルのどの分類にあたるか分類しなさい。

第11講 協働的な学びをデザインする

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 日本における協働学習
- (2) 協働学習と互惠的教授法の考え方と学習効果
- (3) 協働学習に影響を与える要因
- (4) 協働学習のデザインの手法
- (5) 協働学習を支援する教材開発

2. 学習到達目標

- (1) 協働学習の考え方を理解し実際に授業デザインできる。
- (2) ワークショップの手法を5種類説明できる。
- (3) ジグソー学習について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 協働学習の手法の一つである「ジグソー学習法」を経験し、学習者自身で知識を統合して答えを出す学習活動過程について理解を深め、その効用を検討しなさい。

第12講 新たな学びと教育リソース

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 反転授業
- (2) メディアを組み合わせた教育リソース
- (3) 新たな学びと教育リソース
- (4) デジタルアーカイブと教育リソースの連携

2. 学習到達目標

- (1) 反転授業について具体例を挙げて説明できる。
- (2) 反転授業について具体的に授業設計ができる。

3. 研究課題

- (1) 反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。
- (2) 反転授業の学習展開について具体的に説明しなさい。
- (3) 反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。

第13講 行動変容のモニタリング技法

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育支援プログラム（スクールアーク）
- (2) カークパトリック・モデル
- (3) 行動変容のアンケート調査の実施
- (4) 実践から10年後の追跡調査

2. 学習到達目標

- (1) 行動変容とは何か具体例を挙げて説明できる。
- (2) 行動変容を起こすための仕掛けには何が必要か説明できる。
- (3) 行動変容を評価する方法について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 行動変容の評価についてその効果と可能性について説明しなさい。
- (2) 行動変容を促す研修企画について具体的に説明しなさい。
- (3) カークパトリック・モデル（Kirkpatrick Model）の4段階評価を活用する事例を考えなさい。

第14講 「教えないで学べる」という新たな学び

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) J・B キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル
- (2) 「教えないで学べる」学習環境

2. 学習到達目標

- (1) 「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。
- (2) 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。

3. 研究課題

- (1) J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。
- (2) 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。
- (3) 「教えないで学べる」研修を実現するための手立てを考えなさい。

第15講 ワークショップデザイン技法

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) ワークショップとは
- (2) ワークショップの段階
- (3) ワークショップのデザイン
- (4) ワークショップにおけるファシリテータ

2. 学習到達目標

- (1) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。

3. 研究課題

- (1) 幼児教育者を対象として研修を仮定し、学習目標に沿ったワークショップのデザインを立案しなさい。

幼児理解	担当教員	単位数	授業形態
	大井修三・平田美紀・廣瀬真喜子	1	e-Learning

I 学修の概要

幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、ケーススタディにより幼児理解の方法を具体的に提供し、様々な問題解決を通じてから理解の深化を図る。

II 学修到達目標

幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解させるとともに、幼児理解についての知識を身に付けさせ、考え方や基礎的態度を理解させる。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解させる。

III 行動目標

- (1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- (2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- (3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- (5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- (6) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
- (7) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- (2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- (3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- (5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- (6) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
- (7) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- (8) 幼児の理解を、エビデンスベースで理解することができる。
- (9) 主観的解釈から脱却し、他者の解釈を聞くことができる。

第1講 幼児という他者の理解の枠組み：私たちが「幼児の心」を理解するとは？

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児理解の対象は？
- (2) 他者の「心」を扱うための材料1：行動（パフォーマンス）と刺激
- (3) 同じ「状況」と「行動」でも、様々に推測される「心」
- (4) 状況と行動の情報を手に入れても、推測できるとは限らない

2. 学習到達目標

- (1) 他者（幼児）を理解することは「推測」であることについて説明できる。
- (2) 他者（幼児）理解の材料は、環境（刺激）と行動の情報であることについて具体例を示して説明できる。
- (3) 同じ情報に直面しても、人によって様々な「心」が推測されることについて説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼児の心は、推測するより方法がないことについて説明しなさい。
- (2) 幼児の心を推測するための材料は、「刺激」と「行動」の情報であることを、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) 推測される幼児の心は様々であるが、正解がないことを説明しなさい。
- (4) 幼児が同じ行動をしても、状況によって推測される心が異なることを説明しなさい。

第2講 幼児理解の基本は主観的解釈：実践に必要な仲間との共通理解

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 「他者の心」は「私の推測」：どうすればうまく推測できるのか
- (2) 幼児期の勉強をすることの意味
- (3) 幼児（他者）も私（の心）を推測している
- (4) 相手の心は私の主観的解釈：幼児理解に複数の眼が必要な理由

2. 学習到達目標

- (1) 幼児（他者）理解の情報収集には、個人的好みが反映されることについて説明できる。
- (2) 幼児（他者）理解の可能性は、持っていて利用可能な情報の豊富さに拠って決まることを説明できる。
- (3) 幼児（他者）の「心」は私の解釈であることについて説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼児の心を理解するには、様々な知識が必要であることについて説明しなさい。
- (2) 知っていても、使えなければ意味がないことを、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) 理解したと思う幼児の心は、私の中にできた幼児の心であることを、説明しなさい。

第3講 幼稚園教育要領等にみる幼児理解：縦横につながる・つなげるという観点から

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 3法令の改訂（定）
- (2) 幼稚園教育要領等にみる「幼児理解」

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領において「幼児を理解する」とは、どのようなことだと述べているのかを理解し、説明することができる。
- (2) 「幼児を理解する意義」を「縦横につながる・つなげる」という観点から説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 幼稚園教育要領等における「幼児理解」とは、どのようなことだと述べられているのか説明しなさい。
- (2) 「幼児理解」を、横につながる・つなげる（幼児が生活する就学前の多様な施設）、縦につながる・つなげる（乳児期から幼児期・学童期）という観点から行うことの必要性和意義を説明しなさい。

第4講 保育者の専門性と幼児理解

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教師・保育者との信頼関係に支えられた生活
- (2) 実践のなかでの「幼児理解」を探究する
- (3) 「幼児理解」に求められる保育者の専門性

2. 学習到達目標

- (1) 継続的に幼児の言動を見届け、価値づける指導を行ない、幼児の捉え方について助言を行なったりすることができる。
- (2) 幼児期（満3歳から5歳児）の発達の特徴を捉え、保育のなかの一人一人の幼児の「個の尊重」と「集団の育ち」の二側面について理解し、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

3. 研究課題

- (1) 継続的に幼児の言動を見届け、価値づける指導を行ない、幼児の捉え方について助言を行なうためには、どのような保育記録が必要か、様式を作成してみなさい。
- (2) 幼児期（満3歳から5歳児）の発達の特徴を捉え、保育のなかの一人一人の幼児の「個の尊重」と「集団の育ち」の二側面について理解に向かうための園内研修を企画してみなさい。

第5講 幼児を理解する保育記録の方法 [エピソード記述]

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 「子ども理解」のための省察
- (2) 「エピソード記述」の実際

2. 学習到達目標

- (1) 「子ども理解」をするうえで、省察が必要であることを説明することができる。
- (2) 「エピソード記述」の特徴について説明でき、実際に記述することができる。

3. 研究課題

- (1) 保育の場面で心をゆさぶった出来事について、背景、エピソード、考察に沿って描いてみよう。できれば第3者にその内容を見せて、どのように感じたのかコメントをもらい、そのコメント内容を記述してください。

第6講 幼児を理解する保育記録の方法② [ドキュメンテーション]

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) ドキュメンテーションの意義
- (2) 保育におけるドキュメンテーションの広がり
- (3) 3つの法令とドキュメンテーションとの関連について
- (4) ドキュメンテーションを使った保育の循環プロセス
- (5) ドキュメンテーションの作成方法
- (6) 観察方法
- (7) どのような視点で観察するか
- (8) ドキュメンテーションの素材となる写真や動画

2. 学習到達目標

- (1) 「子ども理解」をするうえで、ドキュメンテーションが有効であることを説明することができる。
- (2) 「ドキュメンテーション」の特徴について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 保育の場面で心をゆさぶった場面の写真をとり、ドキュメンテーションを作成してみよう。できれば第3者にその内容を見せて、どのように感じたのかコメントをもらい、そのコメント内容を記述してください。

第7講 園内研修の方法と手立て

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 園内研修の形態や方法
- (2) 園内研修を具現化する方法
- (3) 園内研修を動かす方法
- (4) 園内研修のテーマ（例）

2. 学習到達目標

- (1) 「園内研修」の様々な方法について理解することができる。
- (2) 「園内研修」を実際にデザインすることができる。

3. 研究課題

- (1) あなたが上記の連絡帳のやりとりを園内研修で活用するとしたら、どのように園内研修をデザインするだろうか。具体的にデザインをしてみよう。可能であれば、数名でこの内容を共有して、あなたがデザインした視点で話し合い、そこで得られたことを記述してみよう。

第8講 幼児理解と保護者支援

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 幼児理解のための「生活の連続性」と「発達や学びの連続性」という視点
- (2) ポートフォリオを通した家庭との連携

2. 学習到達目標

- (1) 「幼児理解」における保護者支援の意義について説明することができる。
- (2) 保護者支援の具体的な方法が分かり、説明することができる。
- (3) 保護者支援における情報共有の重要性について説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 日頃からの「家庭との連携」にはどのような方策が考えられるか具体的に説明し、大切にしている観点を述べなさい。
- (2) 保護者と幼児の育ちを共有するために、どのような記録を残し、どのような機会を創っていくことが有効なのか、園内の実際を分析し評価しなさい。（勤務園がない場合は、有効な記録の残し方・様式の開発、機会の創り方等について考えてみよう。）

教育相談Ⅰ	担当教員	単位数	授業形態
	佐々木 恵理	1	e-Learning

I 学修の概要

教育相談や発達相談，子育て支援を行う意義について理解し，教育相談を推進することができるような組織づくりや計画・評価について考える。また，保護者の子育て相談等にあたる心得や態度について理解を深め，幼児が抱える課題に対して，個に応じた支援及び環境調整への配慮を考える。

II 学修到達目標

- (1) 教育相談や発達相談，子育て支援を行う意義について理解し，教育相談を推進することができるような組織づくりや計画・評価について振り返る。
- (2) 幼児・児童生徒が抱える課題を理解し，個に応じた支援及び環境調整への配慮が意識できる。

III 行動目標

- (1) 教育相談の3つの機能について，具体例を挙げて園の取り組みを分類することができる。
- (2) 教育相談担当教員として，園内の体制をより円滑に進めていくための取り組みを計画することができる。
- (3) 昨年度の教育相談・子育て支援関連の取り組みについての課題を明らかにし，改善点を説明することができる。
- (4) 園の教職員にとってニーズのある教育相談研修を立案することができる。
- (5) 園で活用している個別の指導計画や教育支援計画がより機能するためにはどのようにしたらよいか具体策を提案することができる。
- (6) 「気になる子」の行動背景について，多面的・多角的に捉え，個性を生かす指導・支援を提案することができる。

IV 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え，個性を生かす指導を行うことができる。
- (2) 継続的に幼児の言動を見届け，価値付ける指導を行ったり，幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- (3) 関係職員や保護者等と協力して，幼児の状況を共有し，組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように，体勢を整えるとともに問題の未然防止の取り組みを実践することができる。
- (5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし，それに対応する方策を提案し，園の基点となって実践することができる。

第1講 教育相談とはー教育相談が充実する3つの機能を知っていますか？

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 現代の子どもや家庭を取りまく環境
- (2) 教育相談を学ぶにあたって
- (3) 教育相談の3つの機能

2. 学習到達目標

- (1) 教育相談や発達相談を行う意義について理解することができる。
- (2) 教育相談の3つの機能について，具体例を挙げて説明することができる。

3. 研究課題

- (1) 園で取り組んでいる教育相談に関わる活動を列挙しなさい。
- (2) (1) で挙げたそれぞれの活動が、「問題解決的教育相談」「予防的教育相談」「開発的教育相談」のどこに位置づけられるか分類・整理しなさい。
- (3) 各活動を整理する中で、気づいたことについて考察しなさい。

第2講 教育相談体制づくり ―組織的な教育相談体制を構築するには？

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育相談の体制づくり
- (2) 園内委員会の役割
- (3) 関係機関との連携

2. 学習到達目標

- (1) 教育相談の体制づくりや役割について理解することができる。
- (2) 教育相談担当教員として、園内の体制をより円滑に進めていくための取り組みを計画することができる。

3. 研究課題

- (1) あなたの園の実態として、相談体制における役割は、明確になっていますか。
(①明確である ②ある程度明確である ③やや明確ではない ④明確ではない)
どの番号にあてはまるか、理由も合わせて考察しなさい。
- (2) 現在の教育相談の組織にどのような問題点があるか、また改善を図るとすれば、どのような改善案が考えられるか考察しなさい。
(園勤務以外の方は過去の職場などの実践について振り返り取り組んでみてください)

第3講 教育相談における計画・研修の立案・評価

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育相談における計画
- (2) 園内研修の立案
- (3) 教育相談の評価

2. 学習到達目標

- (1) 昨年度の教育相談・子育て支援関連の取り組みについての課題を明らかにし、改善点を説明することができる。
- (2) 園の実態に応じた教育相談の年間計画を立案することができる。
- (3) 園の教職員にとってニーズにある教育相談研修を立案することができる。

3. 研究課題

- (1) 園で取り組まれている教育相談や子育て支援関連の今年度の計画を確認しなさい。
あなたの園の実態としては、計画的に立案されており、十分機能した計画になっていると考えるか。
(①十分である ②ある程度 ③やや不足 ④不足)
どの番号にあてはまるか、理由も合わせて考察しなさい。
- (2) あなたが担当者であるとしたら、(1) での問題点や改善点を活かし、どのような年間指導計画を立てるか計画しなさい。

第4講 教育相談におけるカウンセリング・マインド ―ロジャーズの人間観と3つの態度

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 相手と真摯に向き合うために問い直すことの大切さ
- (2) カウンセリングとは
- (3) ロジャーズの人間観

(4) ロジャーズの臨床実践の基盤となる“中核3条件”

2. 学習到達目標

- (1) カウンセリング・マインドに必要な考え方や態度について理解し、説明することができる。
- (2) 子どもを理解し保護者の子育て相談等にあたる教師の基本的な心得や態度を理解することができる。

3. 研究課題

- (1) 本講で、特に印象に残った事柄を取り上げて、要点を整理しなさい。
- (2) 「自己一致」「無条件の肯定的関心」「共感的理解」について、これまでの実践を振り返り、どの程度できていたでしょうか。それぞれの視点で振り返り、記述しなさい。

第5講 教育相談に活かす話の聴き方 ―相手の気持ちになって理解すること

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 教育相談・子育て相談に活かす話の聴き方
- (2) 話を聴くときの心がけ
- (3) 相談環境についての配慮事項
- (4) 安心した人間関係を築くのに役立つカウンセリング技法
- (5) 保護者との信頼関係づくりを見直す3つのポイント
- (6) 心を込めて聴くということ

2. 学習到達目標

- (1) 教育相談や保護者の子育て相談等にあたる教師の基本的な心得や態度を実践することができる。

3. 研究課題

- (1) 模擬面談のロールプレイを行います。本人は、聴き手役、協力者（同僚など）に話し手役（保護者）になってもらい5分間面談をしてください。その際、相手に了解をもらい録音してください。
- (2) 録音したプロトコルの文字起こしをしなさい。
- (3) 文字起こしを振り返り、聴き手としてできていたこと、改善が必要だったことについて考察をしなさい。

第6講 個々の特性に配慮した指導と支援

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 気になる子どもについての理解
- (2) 子ども理解の前提となる発達の視点
- (3) 一人ひとりの特性に応じた教育とは？
- (4) 子どもの特性を活かした学級づくり
- (5) 子どもの持っている力『リソース』を探そう
- (6) 子ども達の自己効力感を育てるには？

2. 学習到達目標

- (1) 子ども理解の前提となる発達の原則について理解することができる。
- (2) 個々の特性を活かす指導・支援を提案することができる。

3. 研究課題

- (1) 園生活上の課題を抱えている園児を思い浮かべましょう。
- (2) その子どもの気がかりなことや苦手なことはどんなことでしょうか。
- (3) その子どもの強み、「リソース」はどんなことでしょうか。できるだけたくさんあげてみましょう。
- (4) その子どもの強みは、どのような関わりや、環境調整により、発揮されると思いますか。

第7講 ASD（自閉スペクトラム症）の理解と支援

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 特別な配慮を必要とする子どもたち
- (2) 発達障害の概念の変化
- (3) アセスメントに基づく支援
- (4) ASD の認知の特徴
- (5) ASD の認知特性とそれらに応じた支援
- (6) ASD の支援

2. 学習到達目標

- (1) 幼稚園教育要領等にみる特別な配慮を要する子どもとその対応について理解することができる。
- (2) ASD（自閉スペクトラム症）の認知特性について説明することができる。

3. 研究課題

- (1) ASD の3つの認知特性について、説明しなさい。
- (2) 特別な配慮を必要とする子どもへの支援は、個人だけでなく、学級全体にも分かりやすい指示や意味の伝達に繋がる。
ASD の3つの特性や構造化という視点で、園内の環境を見直し、より工夫できるとすればどのようなことがあるか論じなさい。

第8講 教職員一人ひとりが力を発揮するために

1. 概要（何を学ぶか）

- (1) 対人職におけるセルフケアの重要性
- (2) 教師自身のメンタルヘルス
- (3) 教師生活を前向きに乗り越えるためには
- (4) 教師自身の職場での役割と家庭生活の関連：感情に注目をして
- (5) 教職員一人ひとりが力を発揮するために

2. 学習到達目標

- (1) 自分自身のストレスマネジメントについて振り返り、ストレスの仕組みについて理解することができる。
- (2) 教職員一人ひとりが力を発揮できる職場づくりを進めるための具体的な実践を、見出すことができる。

3. 研究課題

- (1) この講で印象に残ったことは、どんなことでしょうか。そのことについて要点をとりあげ、考察しなさい。
- (2) 日常生活や職場でどのようなことを実践していきたいですか。もしくは、これまで続けてきたことをどのようにさらに工夫したいですか。

幼児教育コーディネータ概論

※本幼児教育コーディネータ養成講座の全体像を示す概論です。(受講科目ではありません。)

※そのため、多科目とガイドブックの項目が若干異なります。

I はじめに

今般の子ども・子育て支援関係の人材に対する需要の増加等を受け、私立施設を中心として、幼稚園において幼児教育の質を支える優秀な教員の確保が喫緊の課題となっている。また、平成19年度の岐阜県の幼稚園教諭免許状授与件数の77.9%は二種免許状であり、一種免許状への上進の必要性が高まっている。

また、教育再生実行会議第十二次提言では、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指し、学習者主体の教育に転換することを提言している。そのために、教師の質の向上や多様な人材の活用のための方策や「教学マネジメント指針」に基づく密度の高い組織的な大学教育の展開が求められている。

社会、特に子どもを取り巻く環境が多様化し、幼稚園や認定こども園で幼児教育に携わる教員にもこうした状況に対応する資質・能力の向上が求められる。とりわけ、幼児教育の現場で中心的な役割を担う中堅層（ミドルリーダー）の果たすべき役割は大きい。

しかし、中堅層の多くは二種免許状所有者であり、その専門性を向上させるためには教育委員会の研修で学ぶ教育の最新事情とともに、理論と実践を往還する内容が必要といえる。そのために、教員養成大学においても免許法認定講習等で、二種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進することが求められている。

そこで、教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育・保育の提供を行うためには、個々の教員が自ら課題を持って、主体的に研修に参加する研修体制の確立が必要である。その際、受講者のニーズに応じて柔軟に研修内容を組み合わせたり、ワークショップ型研修方法を取り入れたりして、受講者が主体的に学ぶ講座の場を考えていく必要がある。

ここでは、幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成について考える。

II 目的・ねらい

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成について考える。

III 教育目標

幼児教育コーディネータ養成コースは、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目標とする。

第1講 幼児教育に関する社会的背景

1. 概要（何を学ぶか）

子どもは幼児期のうちに、社会性や表現力、人間関係など、社会でよりよく生きるために必要な力の基礎を学ぶ。生活や遊びのあらゆる体験をとらえて学びを得て、人間的な成長を目指すのが幼児教育である。ここでは、幼児教育に関する社会的背景について考える。

2. 学修到達目標

- (1) 幼児教育に関する社会的な課題について説明できる。
- (2) 幼稚園教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる。
- (3) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼稚園教員の資質向上についてその方策について説明しなさい。
- (2) 幼稚園教員に求められる専門性について、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい。
- (4) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方の課題について具体例を挙げて説明するとともに、その解決方法を示しなさい。

第2講 幼児教育コーディネータ

1. 概要（何を学ぶか）

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムについて考える。

2. 学修到達目標

- (1) 幼児教育コーディネータについて説明できる。
- (2) 幼児教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。
- (3) 幼児教育コーディネータと幼児教育アドバイザーの違いについて具体例を挙げて説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼児教育コーディネータについて説明しなさい。
- (2) 幼児教育コーディネータの活動について具体的に説明しなさい。
- (3) 幼児教育コーディネータと幼児教育アドバイザーの違いについて具体例を挙げて説明しなさい。

第3講 ハイブリット型授業のデザイン

1. 概要（何を学ぶか）

未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むためのこれら3つの「新たな学び」やそれを実現していくための「新たな学びの空間」を形成するためにICTを効果的に活用することが重要である。さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が子供と向き合う時間的・精神的余裕を確保することにつながる。そこで、ここでは遠隔授業の教育利用・研究での課題について考える。

2. 学修到達目標

- (1) ハイブリット型授業について具体的に説明できる。
- (2) ハイブリット型授業について授業設計ができる。

3. 研究課題

- (1) 遠隔教育の変遷について説明しなさい。
- (2) ハイブリット型授業の3つのパターンについて、具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。
- (4) ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。
- (5) 遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。
- (6) 遠隔協働学習を企画し、実際にやってみなさい。

第4講 「教えないで学べる学習」という新たな学び

1. 概要（何を学ぶか）

「インストラクショナルデザイン」や「教えないで学べる」学習環境は、キャロルの学校学習の時間モデルの授業の質を高め、授業理解力を助け、学習機会や学習持続力を高めるための手法であり、学習環境でもある。「教えないで学べる」ためには、これらの手法や環境を整備することによって実現するものであり、学習者の学ぶ意欲を促し、自律的に継続して学ぶ力をつけていくことが重要である。

2. 学修到達目標

- (1) 「教えないで学べる」とはどのようなことは具体例を挙げて説明できる。
- (2) 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。

3. 研究課題

- (1) J・B・キャロル（Carroll）の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。
- (2) 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。
- (3) 「教えないで学べる」研修を実現するための手立てを考えなさい。

第5講 キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力の構造化

1. 概要（何を学ぶか）

幼稚園教諭として不易とされる資質・能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した幼稚園教諭の資質・能力を明確化し、講座の学習目標の分析と構造化を図り、資質・能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルについて考える。

2. 学修到達目標

- (1) キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力を説明できる。

3. 研究課題

- (1) キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力を説明しなさい。
- (2) キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力は、どのような活動によって向上できるかについて具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力について、自己をメタ認知し、どの部分が不足し、その不足を補う方法を説明しなさい。

第6講 幼児教育コーディネータ養成カリキュラム

1. 概要（何を学ぶか）

幼児教育にまつわる社会的な課題である幼児教育の人材の質の向上は、特にミドルリーダーを対象に幼稚園教諭2種免許を1種免許に上進すると共に、国内外における幼児教育の重要性についての認識を高め、幼児教育の量の拡充だけでなく、質の向上を求める声を高め、新たな学びを創造する資質が幼稚園教員にも求められていることの再認識をすることが必要である。ここでは、幼児教育コーディネータ養成カリキュラムについて考える。

2. 学修到達目標

- (1) 幼児教育コーディネータに求められる資質・能力を説明できる。

3. 研究課題

- (1) 幼児教育コーディネータに求められる資質・能力を説明しなさい。
- (2) インストラクショナルデザイン指導力について具体例を挙げて説明しなさい。
- (3) インストラクショナルデザインを活用した授業改善について、具体例を挙げて説明しなさい。

第7講 幼児教育コーディネータの学習目標の分析

1. 概要（何を学ぶか）

目標の構造は、子どもの実態によって変わる。子どもの実態、先生の指導方法・指導力、そういうことを含めた教材研究がなされて初めて目標分類ができる。ここでは、幼児教育コーディネータの学習目標の分析を考える。

2. 学修到達目標

- (1) BS.ブルームの「教育目標の分類学」を説明できる。

3. 研究課題

- (1) あなたは、どのような場面でメディアの影響を強く受けていると思うか、また、どのような場面でメディアの影響をあまり受けていないと思うか説明しなさい。
- (2) テレビなどのCMは、専門家がなんとか視聴者をひきつけようとして創作した作品である。どんなCMが印象に残っているか。それは何故か。メディアの特性をどのように使っているか具体例を示して説明しなさい。
- (3) インターネットで、いくつかの教材を調べて、その教材の有効性を5段階で判定しなさい。そして、どのような要因でその判定結果になったかを説明しなさい。

第8講 新たな学びと教育リソース

1. 概要（何を学ぶか）

日本では1980年代から「自己教育力」が推奨され、「自ら学び自ら考える力」が重視されている。このことは、他律的でなく自律的な学習態度の教育が重要になっている。ここでは、この実践的資質・能力の向上と、反転授業での活用を想定した教育リソースの開発について考える。

2. 学修到達目標

- (1) 反転授業について具体例を挙げて説明できる。
- (2) 反転授業について具体的に授業設計ができる。

3. 研究課題

- (1) 反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。
- (2) 反転授業の学習展開について具体的に説明しなさい。
- (3) 反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。

第9講 教えて考えさせる授業の展開

1. 概要（何を学ぶか）

小学校理科における児童の多視点映像教材を活用した実験支援方法に関する研究を通じて、“教えて考えさせる授業”の展開について考える。

2. 学修到達目標

- (1) 多視点映像教材の処理方法について順を追って説明できる。
- (2) 多視点映像教材を使った“教えて考えさせる授業”への展開について説明できる。

3. 研究課題

- (1) 多視点映像教材の処理方法について順を追って説明しなさい。
- (2) 多視点映像教材を使った“教えて考えさせる授業”への展開について説明しなさい。
- (3) マルチアングル映像と多視点映像の違いと特徴を説明しなさい。

第10講 研修の目標とその評価方法

1. 概要（何を学ぶか）

研修の設計の考え方において、1960年代に米国の教育工学研究者のロバート・メーガー（Robert F. Mager）は、次の3つの質問をすることで、研修の目標と評価方法を定めることの重要性について考える。

2. 学修到達目標

- （1）ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問について説明できる。
- （2）研修目標の明確化について具体例を挙げて説明できる。

3. 研究課題

- （1）ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問について説明しなさい。
- （2）研修目標の明確化について具体例を挙げて説明しなさい。
- （3）「知識習得モデル」と「知識創造モデル」の違いと特徴を説明しなさい。
- （4）変容的評価について説明をしなさい。

第11講 自律的なオンライン研修の分析と設計

1. 概要（何を学ぶか）

教えない研修が実現するためには、自律的な学習者となることが重要であり、自律的な学習者であれば自律的なオンライン研修が実現する。ここでは、自律的なオンライン研修の分析と設計について考える。

2. 学修到達目標

- （1）e-Learningという学習について説明できる。
- （2）研修の効果分析について具体例を挙げて説明できる。

3. 研究課題

- （1）自律的なオンライン研修について、具体的に企画しなさい。
- （2）研修の効果測定について具体例を挙げて説明しなさい。

第12講 教育活動をデジタルアーカイブする

1. 概要（何を学ぶか）

日本の授業のみならず具体的に諸外国の授業をアーカイブ化し、長期保存を考えデジタルアーカイブ手法による関連教育資料の構成について考える。

2. 学修到達目標

- （1）授業分析に必要な教育資料の構成について説明できる。
- （2）授業分析手法について具体的に説明できる。

3. 研究課題

- （1）授業分析に必要な教育資料の構成について具体例を挙げて説明しなさい。
- （2）各授業分析手法について具体的に説明しなさい。
- （3）英国の授業分析を授業アーカイブプロジェクトの例に倣って、行ってみなさい。

第13講 親子のコミュニケーションを分析する

1. 概要（何を学ぶか）

活動を教育として適用するためには、活動についての親子の状況を調査し、親子の共同学習として、どのような指導方法、展開をさせるか検討する必要がある。そこで、この「動く紙おもちゃ作り」の教材化と意識の調査を考える。

2. 学修到達目標

- (1) コミュニケーションの定義について説明できる。
- (2) コミュニケーションを促す講座の設計について説明できる。

3. 研究課題

- (1) コミュニケーションの定義について具体的に説明しなさい。
- (2) コミュニケーションを促す講座を設計しなさい。
- (3) コミュニケーションに関する独自の調査用紙を作成しなさい。

第14講 「新たな学びの空間」の構成と学習環境

1. 概要（何を学ぶか）

放課後児童クラブを「新たな学びの空間」として社会の中に定義し、「新たな学びの空間」に求められる機能や学習環境、カリキュラム、指導方法を考える。

2. 学修到達目標

- (1) 新たな学びの空間について説明できる。
- (2) 新たな学びの空間における幼児教育コーディネータに求めるものについて説明できる。

3. 研究課題

- (1) 放課後子どもプランの課題について具体的に説明しなさい。
- (2) 新たな学びの空間について具体的に説明しなさい。
- (3) 新たな学びの空間における幼児教育コーディネータの必要性について説明しなさい。

第15講 「教える」から「学ぶ」への変革

1. 概要（何を学ぶか）

行動主義の代表としてはバラス・スキナー (B. F. Skinner), 認知主義の代表としてはピアジェ (J. Piaget) の理論を取り上げ、カリキュラム改革運動期における教授・学習論について考える。さらに、構成主義的学習論から社会的構成主義に至る経緯を考える。

2. 学修到達目標

- (1) 教授学習に関する基本的な理論を具体的に説明できる。
- (2) 行動主義と認知主義の2つの学習論の区別を説明できる。

3. 研究課題

- (1) 行動主義的学習論と認知主義的学習論、構成主義的学習論に対応した課題（問題）を作成しなさい。
- (2) 社会人の学習方法の特徴について具体例を挙げて説明しなさい。